

福岡大学医学会ニュース

国際交流時代を前にして

国際交流委員 永田 武明



我が国が諸外国との間にひき起こしている摩擦の背景には国際感覚の貧しさがあり、物質交流の急速な拡大が、内的精神文化を置き去りにして独り歩きしている所に問題があるという。歴史的に極東の孤島で、現代国際社会には新参者に近い我が国（我々）といえども、国際化を求められても苦しいが、ともかく島国の「生徒」から脱皮を迫られていることは間違いない。国際的視野を持って、という趣旨の講義がしばしば紙面や電波に登場するのも時代趨勢の反映であろう。

福大は、身体的にはすでに十分の発達を遂げ、今は精神的成長を目標とする。turning pointに立っている。この認識が学内に高まっている。精神的成長の持つ意味の中心には国際化が含まれている。国際化とは外国化とも、外国への一方交通とも異なり、真の相互交流を目指すものである。昨年の学内における国際交流委員会の発足もその姿勢の現れであり、現在、外国人研究者、学生などの具体的受け入れ方法を検討中である。この委員会が関与する企画の一つに本学学生の語学研修旅行がある。すでに米国、ウオッシュバートン大学（カンザス、トピカ）を三回にわたり、年約四十名の学生が訪問し、ホームステイを含む研修を受け、日常生活を体験して帰っている。彼らの感想レポートを読むと著明な心理共通点に気付く。それは、第一に言語、習慣など異質文化との接点に生じた不安と緊張、第二に研修中の順応に

ついて生じる強い好奇心、最後に、帰国後徐々に芽生える自己ならびに周囲文化に対する客観視の態度である。前者の心理、行動は未知なるものとの出会いに際して誰もが経験する生理現象であるが、最後の変化は知的、情的レベルを超えた新感覚の誕生といえる。上述の旅行にはそれなりの教育目的があったことを考慮すると、彼らが生じた変化をそのまま一般法則化するわけには行かないが、零から何かが創り出されたことの意味は大きい。ただ折角の精神的財産が、学生の卒業とともに社会のどこかでそれなりの役割を果たす可能性はあるにしても、学内における蓄積、波及効果という点では多くを認めない。

学生教育の一環であるから、この場合はこれでよいとして、全学的な国際化を目指すとなれば、学内のみなさん、教職員すべてが参加できるようなオープン化による相互交流が、システムのうえでも意識のうえでも必要ではないだろうか。学生が出席前に抱いた不安と緊張はとも直さず turning pointに立った我々自身の持つそれといえないこともない。個々のケースで国際交流を活性化しておられる所も多いが、大学全体としてみた時、これからの問題であるという感を深くする。発展の尺度として、建築構造物や人員数とは別に、人材、学問的業績、社会貢献度、その他、計量次元では捕え難い文化資産もまたとり上げられるのが大学としては自然な方である。いさかか標準を欠く「イナカもの」なる語は、地理的に山村地区に居住する人のことではなく、意識感覚上の「ムラ」人を指す。農村社会に由来する我が国のムラ構造は組織、個人の意識と意識下を問わず深く根を張っており、この日本村落に生き馴れてきた私どもは、往々にして異

ことがあったら何でも言え……」と。一人は小包用の箱を組み立ててくれ、退社時間を私に含ませて郵便局まで案内してくれた。学会ホテルで重ね合わせたように観察され、最初の彼らの無関心の態度は、どうやら私を含めた英語グループにも問題があったように思われる。断つておろか、グループはステイ感充分の立派な人達ばかりであった。S国国内でその後もしばしば経験した態度の大きな落差は、F国、G国などではあまり感じなかった。S国は自分にも何らかの潜在コンプレックスがあるのかもしれない。それはさておいても、コミュニケーションに

ある恩恵をいつまでも独占し続けるわけには行かない時期にきている。それどころか相手によっては分ち与える立場さえ期待されている。頂くせよと与えるにせよ、相互交流が単なる知識、技術のやりとりにとどまらず、もっと深い所で文化本能を刺激し、より高次の精神的所産を創造する役割を果たすことは間違いない。私どもも、日本の西のそのまた隅に位置する地理上の現実をハンディキャップとするか、identity 確立のためのバネとするかは一に私ども自らの選択に任されている。

(法医学教授)

米・独の医学教育を比べて

竹林 茂夫



三月間の短期在外研究員として専門研究分野の諸施設をまわった。特に日本人医学関係者から見たら、米・独の医学教育制度の相違を個人的体験を中心に断片断片を報告する。

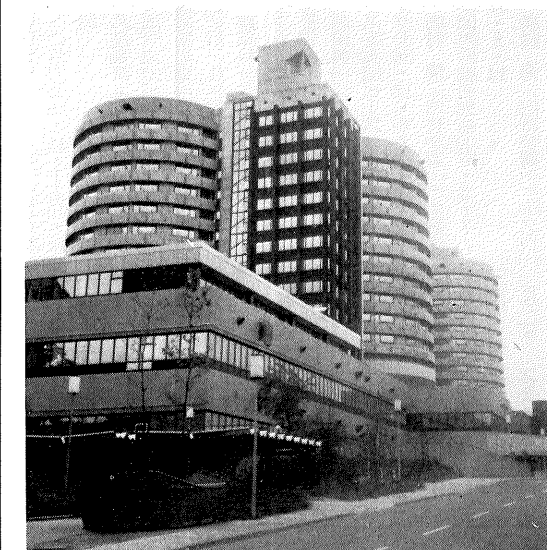
まず第一に感じたことは米国、ヨーロッパ、アフリカ（ケニア）と国は異なっても今日、大学入試で最も人気のあるのは医学部であった。これにはいろいろな解釈がでるが、紙面の都合で割愛する。米国の入試方法はすでに多くの先人によって紹介されているので再述を省くが、理学部や心理学部を卒業してから医学部入試に挑戦する。この医学部も難関である。この医学部の成績はオール5からそれに近い人がほとんどである。早い話がハワイ大医学部

に入るのも米本土の有名大を卒業してはならない、ハワイ大の心理学部卒業でなければならぬ。彼らは主としてパラメディカル系、理学部などに編入して行く。六年後、卒業試験をパスする頃には百名から一五〇名前後と、日本や米国のほぼ同数になっている。卒業試験は今でも口答試験が多い。ポリクリ・グループ（SGT）のようなものに分類されて、男女学生はいずれも黒のスーツに白ネクタイやリボン姿で教室に入っていく。そこでは直立不動の姿勢で試験を受ける。

一方、米国ではほとんどがマルチブル・チョイスの筆記試験と視聴覚教材を用いた合理的・能率的な（？）試験方法を用いている。毎週の講義の前にも簡単な試験を行うなど、やたらと試験される。実習も格段と密度が高い。ただ学生の出席率は米国もドイツもあまり問題にされない。実習を除く講義出席率は五〇前後のようである。Flegel Do-it-yourself course（自分自身でやる）が教育理念となっていた。米国の医学部では一年生に二七の割合で留年者が出ている。ただ落ちた科目でも夏休みを利用して補習をしてくれる。またドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスなど）では初年度に大きい大学で六百人、小さい大学でも三百人前後が医学部入

学を許されるが、入学後が大変である。二年後（教養終了時）の学生数はほぼ半数に減少する。退部をよぎなくされた人々は理学部や農学部などに転部して行く。日本と異なりこうした人々に対して社会は極めて寛大である。本人もさほど羞恥心をもっていない。このことは長い教育制度の中で民衆の心に受けこんでいる。さらに次の二年（基礎医学終了時）にはまた半数が医学部から去って行く。彼らは主としてパラメディカル系、理学部などに編入して行く。六年後、卒業試験をパスする頃には百名から一五〇名前後と、日本や米国のほぼ同数になっている。卒業試験は今でも口答試験が多い。ポリクリ・グループ（SGT）のようなものに分類されて、男女学生はいずれも黒のスーツに白ネクタイやリボン姿で教室に入っていく。そこでは直立不動の姿勢で試験を受ける。

今日、学問、教育にも多くの合理性、能率性が要求されている反面、そこには権威主義も必要である。もしこれに問題があるとすればそれは守る人の側であろう。



モダンな建物に変わった西ドイツの大学病院

ドイツの医学部入学者は古いまま残されている。小学四年を終え九年制のギムナジウムに入塾し、卒業試験（Abitur）に合格すれば制度上はどの大学、どの学部にも入学が許されることになっている。ただ卒業試験の成績次第では希望学部への入学を待たされる場合がある。特に人気の医学部では二、三年の待機を強いられる人も少なくない。

今日、学問、教育にも多くの合理性、能率性が要求されている反面、そこには権威主義も必要である。もしこれに問題があるとすればそれは守る人の側であろう。



西ドイツの大学での病理解剖の検討風景

とは言えない。米国では皮膚の色や英語の上手、下手と関係なく実力があると判断されれば奇抜な振舞いは日常茶飯事に行われている。これが極東、東南アジア、近東諸国の秀才組にとっては限りなく大きな魅力になっている。もちろん、多額の研究費や研究の自由も確実なそこにはある。おなじみに米国で活発な研究を行っている施設をのぞいてみると、シンガポール、台湾、インド、イラン、イラクなどの大学を優秀な成績で卒業した連中が、教授や準教授の地位についているのは決してめづらしくない。もちろん、頭張らねば落伍者になるわけで生活もかたっているが、支配者になろうとしない能力に底力に地位を得るの

教室 便り

学位取得

田口尚(病理学第1) 福岡大学に提出。昭和五十七年七月一日付で医学博士授与。

学位論文「Aggravating Factor in Lupus Nephritis: Electron Microscopic Observation」

白石昌之(病理学第1) 福岡大学に提出。昭和五十七年七月一日付で医学博士授与。

学位論文「An Electron Microscopic Study on Aging of Collagenous Fibrils in the Large Blood Vessels of Humans」

上原 明(生理学第1) 九州大学に提出。昭和五十六年十二月一日付で理学博士授与。

学位論文「Structure of the visual system of the Heptathela Kimurai」

那須康典(生理学第1) 福岡大学に提出。昭和五十七年三月十九日付で医学博士授与。

学位論文「ヒトの結腸蠕動に対するホルモン調節効果」

波多江純真(生理学第1) 九州大学に提出。昭和五十七年四月一日付で理学博士授与。

学位論文「Effects of lanthanum on the electrical and mechanical activities of frog ventricular muscle」

吉田豊和(内科学第1) 福岡大学に提出。昭和五十七年三月十九日付で医学博士授与。

学位論文「Platelet Aggregation Studies in Patients with Angina Pectoris: Relationships to Types of Angina and Coronary Pathomorphology」

徳永雄一郎(精神医学) 福岡大学に提出。昭和五十七年三月十九日付で医学博士授与。

学位論文「精神分裂病者、うつ病者、神経症者の面接時における非言語性行動の特性に関する研究」

来 訪

平塚隆三(外科第1) 九州大学に提出。昭和五十七年一月八日付で医学博士授与。

学位論文「食道癌のDNA含量測定による臨床病理学的研究」

大島一寛(泌尿器科第1) 九州大学に提出。昭和五十六年十二月十七日付で医学博士授与。

学位論文「Effects of various osmotic solutions on membrane properties of smooth muscle cells of the guinea pig ureter」

昭和五十六年十月以降、本学医学科または病院を訪れた外国学者はつきのとおり所属・目的・来訪日

Nayak, N. C. ①Professor, Department of Pathology, All-India Institute of Medical Sciences, New Delhi, India ②Hepatic B Virus and hepatocellular carcinoma

Stutte, H. J. ①Professor, ②University of Medicine of the City of New York ③放射線医学部 講演「Medullary venous malformations-clinical, angiographical and CT findings」

Kunmer, B. ①University of Cologne 教授 ②第六十三回西日本整形外科学会 講演「Biomechanics of the shoulder」

Han-Ting, C. ①Taiwan University 教授 ②第六十三回西日本整形外科学会 講演「Clinical experience on the operative treatment of fractures about shoulder」

Port, M. ①Michael Reese Hospital and Medical Center 教授 ②第六十三回西日本整形外科学会 講演「Total shoulder replacement with a constrained prosthesis」

Fritz, C. R. ①ハーゼル大学 耳鼻科教授 ②耳鼻咽喉科教室に於て教室形成術について講演

Lin, T. J. ①シージャ大学 医学部産婦人科教授 ②メコン大学にて講演「What's new in endocrinology?」

講義「Review of neuroendocrinology」

学術交流

昭和五十六年十月以降の海外留学又は海外出張者はつきのとおり

①研究先 ②目的 ③期間

織田公光(生理学第1) ①カナタ ②トロント大学医学部生理学教室 ③糖蛋白質の生成に関する研究 ④57.4.1~58.3.30

岩崎 宏(病理学第1) ①西独 ②フランクフルト大学 ③軟部腫瘍ならびに網膜系腫瘍の病理的研究 ④57.6.1~58.5.31

満留昭久(小児科第1) ①アメリカ ②ペンシルバニア大学 ③小児の脳幹の電気生理学的研究 ④57.7.1~58.6.30

松崎昭夫(整形外科第1) ①西独 ②フランクフルト大学 ③ハイデルベルグ大学 ④欧米医学教育の卒後研修の実情調査 ④57.6.1~58.4.30

海外出張

黒木政秀(生化学第1) ①アメリカ ②癌抗原の共同研究 ④57.6.1~57.9.13

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②メソコ ③10th Annual World Fair for Technology Exchange ④57.2.20~57.3.7

古川達雄(薬理学第1) ①イギリス ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

海外出張

黒木政秀(生化学第1) ①アメリカ ②癌抗原の共同研究 ④57.6.1~57.9.13

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②メソコ ③10th Annual World Fair for Technology Exchange ④57.2.20~57.3.7

古川達雄(薬理学第1) ①イギリス ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

海外出張

黒木政秀(生化学第1) ①アメリカ ②癌抗原の共同研究 ④57.6.1~57.9.13

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②メソコ ③10th Annual World Fair for Technology Exchange ④57.2.20~57.3.7

古川達雄(薬理学第1) ①イギリス ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

海外出張

黒木政秀(生化学第1) ①アメリカ ②癌抗原の共同研究 ④57.6.1~57.9.13

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②メソコ ③10th Annual World Fair for Technology Exchange ④57.2.20~57.3.7

古川達雄(薬理学第1) ①イギリス ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

海外出張

黒木政秀(生化学第1) ①アメリカ ②癌抗原の共同研究 ④57.6.1~57.9.13

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②メソコ ③10th Annual World Fair for Technology Exchange ④57.2.20~57.3.7

古川達雄(薬理学第1) ①イギリス ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

海外出張

黒木政秀(生化学第1) ①アメリカ ②癌抗原の共同研究 ④57.6.1~57.9.13

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②メソコ ③10th Annual World Fair for Technology Exchange ④57.2.20~57.3.7

古川達雄(薬理学第1) ①イギリス ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

海外出張

黒木政秀(生化学第1) ①アメリカ ②癌抗原の共同研究 ④57.6.1~57.9.13

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②メソコ ③10th Annual World Fair for Technology Exchange ④57.2.20~57.3.7

古川達雄(薬理学第1) ①イギリス ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

海外出張

黒木政秀(生化学第1) ①アメリカ ②癌抗原の共同研究 ④57.6.1~57.9.13

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②メソコ ③10th Annual World Fair for Technology Exchange ④57.2.20~57.3.7

古川達雄(薬理学第1) ①イギリス ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ②第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ②国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

新刊紹介

八回アジア太平洋産婦人科学会、シンガポール産婦人科学教室と共同研究打ち合わせ ④56.10.23~56.11.6

八尾恒良(内科学第1) ①チリ ②国際協力事業団からの派遣で胃癌診断の指導及び教育 ④56.12.15~57.1.20

藤田晃一(内科学第1) ①イギリス ②Growing Points in Endoscopy ④56.11.11

藤田晃一(内科学第1) ①イギリス ②英国ヒースロー・ミューズ ④56.12.8~56.12.12

奥村 尚(内科学第1) ①香港 ②国際肝臓研究会 ④57.2.7~57.2.14

奥村 尚(内科学第1) ①スウェーデン ③The World Congress of Gastroenterology ④57.6.14~57.6.19

広木忠行(内科学第1) ①アメリカ ②心電図自動診断会議、シンシナチ大学内科学部訪問 ④56.10.23~56.11.1

荒川規矩男(内科学第1) ①西ドイツ ③第三回国際シンポジウム ④56.10.28~56.11.9

吉田 稔(内科学第1) ①中華人民共和國 ②臨床呼吸器生理(カス交換・肺循環)について講義 ④56.11.29~56.12.5

内藤説也(内科学第1) ①オーストラリア ③同シンポジウム ④56.12.11~56.12.20

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

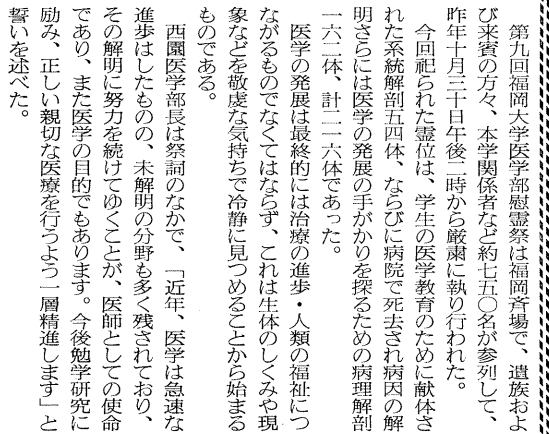
荒川規矩男(内科学第1) ①韓国 ③第三回日韓合同心臓学会出席 ④57.5.13~57.5.17

荒川規矩男(内科学第1) ①モナコ ③国際シンポジウム ④57.5.13~57.5.17

古川達雄(薬理学第1) ①アメリカ ③Searl's Science Advisory Board Meeting 出席 ④57.5.13~57.5.20

古川達雄(薬理学

—第9回医学部慰霊祭—



れですが、ドイツでは比較的ポルビュラーな疾患で毎週のように新鮮材料が入手できますので大変うれしく思っています。この研究と並行して最近脾臓の方も少しいじくっています。今調べているのは人工腎臓（血液透析、長期使用患者に見られる脾腫です。人工腎臓を長い間使っていると、脾臓が膨れて汎血球減少症を来すことがわかって、最近のトピックスになっています。私自身はそのような例を日本では経験したことがなかったので、興味を持って調べています。

最後に西ドイツの学会について簡単に報告します。

八年十月にドイツ病理学会が

井上幹夫・守田則一・塩飽徳行 (健康 管理学) ① HLA
Antigens and Ulcerative Colitis ② 7th World Con-
gress of Gastroenterology ③ スウェーデン ④ 57.
6.14~57.6.19

満留 昭久

アメリカ合衆国の Iowa にまゐりまして半年を過ぎました。私の Iowa 大学は人口三万ぐらいの Iowa City にある州立大学です。Iowa City は大学以外は何もないところ、よほどの田舎間で、町全体が大学を中心に動

助教授)で、他にアメリカ人スタッフ二名とレジデント二名がいます。木村教授は筋電図・F波・Blink reflex^注・山田助教授は evoked potential^注のうちらではよく知られており、内外の研究者がよく訪れてきます。

この Division はまた神経生理に関する中検査業務もひきうけており、私共の臨床実験はこの中検査業務が終る三・四時ごろの互いに被験者になってやります。

テクニシャンは筋電図関係が三名、脳波関係が七名、その他脳波

らに指示したり、アドバイスしたり
ディスカッションしたりしま
す。彼らの技術と知識はかなりの
ものです。

Iowa は寒気が周期的におし
よせ、一月をすぎると町を流れて
いる川が凍るといふ話です。これ
から三月くらい閉じ込められま
すが、春になったらアメリカ国内
を少ししてみたいと思っています。
ます。

医学会会員の皆様の御健康と御
発展をお祈りいたします。

立した建物 (Institut) を持ち、福岡大学とは対照的で、病棟の中央化計画はあるものの、一部を除いてほとんど進展していません。そのため診療の能率は余り良くないようですが、ただうちやましく思われるのは研究室のスペースが十分に広いことで、日本の大学のように狭い部屋に多数の人間と機械がごちゃごちゃに詰め込まれる、ということはありません。

フランクフルト大学の病理学教室には三つの Abteilung (講座) があり、主任教授の定員は三

rende Ly mphadenitis
KIKUCHI じくちと題し演説した。
たのが注目を集めました。

この疾患は菊池昌弘教授が十年前に始めて独立疾患として記載されたもので、比較的若い女性の頸部リンパ節を冒し、組織学的には細胞崩壊産物を貪食した組織球が多数出現し、一見悪性病変とまちまちの像を示す特異なリンパ節炎です。Lennett 教授は世界的に有名な血液病理学者ですが、菊池教授の業績を引用しながら、この疾患が日本だけでなくヨーロッパ

広瀬宣之・白日高歩・重松信昭（外科学第二）①Clinical study on the prevention against cytotoxic lung damage caused by antineoplastic agents ②Ⅲrd World Cnf. on Lung Cancer ③東京 ④57.5.17～57.5.20

私のまは Department

of Neurology は、数名のスタッフがおお、Neurology としては大きな方です。この Neurology は、プログラムの評判がよい、レジデントの競争率が五倍以上と狭き門となっています。したがって、Neurology のレジデントやスタッフはアメリカ人で占められ、外国人留学生のはいり込む余地は少ないようです。

私はこの Department の 'Neurophysiology' の Division にお世話になっています。この Division は教授・

助教授が日本人（木村教授、山田

西ドイツに参りまして早くも七カ月が過ぎました。こちらに来るきっかけになったのは菊池昌弘教授とフランクフルト大学病理の Sutter 教授が年来の友人であり、両先生の推薦により私がフランクフルト財団の研究員に採用されたためです。昭和五十七年六月からマンハイムの Goethe-Institut にて四か月間ドイツ語研修を受け、十月一日からフランクフルト大学病理学教室で軟部腫瘍と脾の病理について研究しています。ドイツ語では相変わらず苦勞していますが、日常会話は何とかし

衝であったところから完全に破壊されましたが、戦後めざましく復興し、現在では人口約七十万を数える大都会となり（ドイツでは人口三十万以上の都市は少ない）、市内には多数の銀行が軒を並べ、西ドイツ金融界の中心として活気のある町です。またフランクフルトは西ドイツのほぼ中央に位置してはいるところから、国鉄、アウトバーン、航空機などの交通網が集中しており、交通と流通のセンターとしての機能も果しています。

私が毎日通っている医学部はフランクフルトの南部にあり、マイ

の個人所得になるのですが、日本ではとても考えられないことだと思います。研究室の設備は日本の大学と大差ありませんが、電子顕微鏡や培養室、動物実験室などの機器は福岡大学の方が充実しています。ドイツ人は一般に古い機械でも大変大切に使用しており、最近の日本人のようにすぐ新製品に飛びつくという人は少ないようです。

私の研究テーマとしては軟部腫瘍（*Dupuytren 拘縮*）の電顕的および組織化学的検索を行っています。*Dupuytren 拘縮*は日本ではまれ

私は元來特に愛國者といつわけではありませんが、日本人の學問的業績が外國で高い評価を受けたことはやはりうれしいものです。特にそれが福大関係者のものでもあれば、わが福岡大学は研究設備については世界の一流大学に決して負けないものを現在すでに持っています。ですから我々の研究も世界に通用するものをもとにだん出で行かなければならないと改めて感じました。

(発表者名：①題目 ②学会名 ③開催地 ④年月日)

荒川規矩男(内科学第二) ①A new bradykinin analogue lacking one proline residue formed from human plasma protein by trypsin. ②第2回国際キニン学会 ③ドイツ ④56.11.2~56.11.5

10

自己紹介

昭和五十七年四月以降本学へ赴任された助教授、講師の方に自己紹介をしていただきました。以下原文のまま掲載します。

解剖学第一助教授

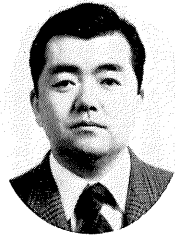
亀田 美子



「出身地はどこですか」と聞かれたときは「小豆島です」と答えることになりましたが、小豆島の隣にある豊島という小さな島で生まれました。四十二年に京都大学薬学部を卒業し、岡山大学医学部解剖学教室に入室して以来、解剖学の道を歩むようになりました。岡大で一年半だけでしたが藤田恒夫先生（現新潟大学教授）に指導して頂き、甲状腺癌細胞を培養法で染色するように言われたことで私の研究方向が決まりました。以来今までの細胞をあらゆる組織から調べてみたいと思ってきました。昭和十六年一月十七日佐賀市で出生。「葉隠」の山本常朝、維新の元勳大隈重信、大木喬任、江藤新平のゆかりの跡を遊び場にして育ちました。父は外科を開業しており、往時はたまたま手術が多く大繁盛でした。虫垂炎、痔核、胆石、乳癌はもろろ腸閉塞、胃腸、大腸癌に至るまで全部局所麻酔、ゴム手袋なし、点滴静注はほんの少々、術後肝臓炎などに悩まされたものでした。その所為か、後年九州大学医学部に進んだからは、むしろ病理学、循環器学、神経学に興味を持ちました。結局は、一般外科を志望した。九大第一外科に入局してからは、井口潔教授の御指導の下に、主として胃癌の外科・病理学的研究に従事してきました。その間病理学第一講座で四年間田中健蔵教授（現九大学長）の御世話になり、病理学一般を研修しながら、「癌転移と凝固系」に関する実験的研究」と題する学位論文をまとめた。その時以来癌の治療は癌細胞の浸潤転移の抑制にあるという当り前のことを、顕微鏡下に拡がる美しさを残

外科学第二助教授

児玉 好史



昭和十六年一月十七日佐賀市で出生。「葉隠」の山本常朝、維新の元勳大隈重信、大木喬任、江藤新平のゆかりの跡を遊び場にして育ちました。父は外科を開業しており、往時はたまたま手術が多く大繁盛でした。虫垂炎、痔核、胆石、乳癌はもろろ腸閉塞、胃腸、大腸癌に至るまで全部局所麻酔、ゴム手袋なし、点滴静注はほんの少々、術後肝臓炎などに悩まされたものでした。その所為か、後年九州大学医学部に進んだからは、むしろ病理学、循環器学、神経学に興味を持ちました。結局は、一般外科を志望した。九大第一外科に入局してからは、井口潔教授の御指導の下に、主として胃癌の外科・病理学的研究に従事してきました。その間病理学第一講座で四年間田中健蔵教授（現九大学長）の御世話になり、病理学一般を研修しながら、「癌転移と凝固系」に関する実験的研究」と題する学位論文をまとめた。その時以来癌の治療は癌細胞の浸潤転移の抑制にあるという当り前のことを、顕微鏡下に拡がる美しさを残

外科学第二助教授

白田 高歩



九州大学医学部を卒業後十五年経ちます。卒業時インターン闘争の真最中であり、私自身はノンポリ学生の一入だったのですが、運動に加わった形で一年余の自主研修時代を過ごしました。その後生の松原に在った九州大学の胸部疾患研究施設に入り、数年間胸部疾患の基礎・臨床面での指導を受けました。九州がんセンターに移って一年後、母教室の外科部門が解散し九大の二外科に併合されました。その方々の方の助手として活動した。福大への転出は突然だったのですがこちらに着任して既に五年が過ぎています。九大胸研時代は手術症例も肺結核の方が多く、肺がんが増えたとの予測もしていませんでした。昭和四十四年四月十五日頃金沢で開かれた日本肺癌学会総会に、二年先輩の河津先生（日田市で開業）と出席し、肺がんの何たるかよくわからぬまま、手を握りあてて癌と闘うぞと誓った事をよく思い出します。肺がんは胃癌に比べて治療率の向上が乏しく、その原因として早期発見が困難な事があげられていました。しかし福岡県でも私達の常日頃の希望がとりあげられる形で検診システムが発足する事になり、私もその組織委員の一人として加えさせていただいてます。医学部特に外科部門でこの動きの理解と強い御協力を願う次第です。私の力不足のせいなのでしょうが、最近患者が増加するにつれて臨床・研究部門での人員の不足に悩む事が何となくあつたのかと思っています。それにつけても福大医学部が独自の優れた歩みを始める為には、小さいながらも多種々の弊害があるように感じます。九大の講座制がそのまま導入されて尾をひく形は福岡大学の卒業生にとって余り好ましい結果をもたらさぬように思ふ次第です。福大医学部はここ卒業生ばかりでなく、九州地区あるいは全国に派遣されて三月間針灸の理論と実践をつぎに学ぶ機会があったこと以前より東洋医学の人間の見方、物の考え方に興味を持ちたいことから、一年前より取り組んでいます。くも膜下出血手術後に脳圧亢進をきたした症例で、V-Pシャントを施行した患者さんの異常食欲亢進が耳に針をする事で著明に抑制されたことから、耳針の有効性やツボの意義及び作用機序について、三年前より検討中で、昨年は満腹中枢破壊ラットを用いて実験し、機序の一端がわかり始めました。非常に興味をもっています。三十五才。妻と一男一女の四大家族です。

内科学第二講師

向野 義人



昭和四十六年九大卒業。昭和四十八年三重大大学院入学。富地教授のもとで培養系細胞の膜電位に及ぼす Electrolytes, Tetrodotoxin, Verapamil, Isoproterenol, Propranolol, cyclic nucleotides の

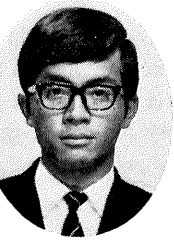
内科学第二講師

中島 志行

昭和二十年五月四日鹿児島県出水郡で生まれ、昭和四十五年九大卒業後、九大附属病院で一年半内科の臨床研修を終えました。その後北九州市立戸畑病院内科に勤務

内科学第二講師

佐々木 淳



昭和二十三年福岡生まれ、昭和四十二年田川高校、昭和四十七年昭和大学医学部を卒業しました。大学卒業後、年間九州大学病院にて一般内科を研修（第一、二、三各内科ローテーション）、九大第一内科に入局、伝統ある異常色素症の研究に加わりました。昭和五十二年「異常ヘモグロビンの構造と機能に関する研究」で学位を得、同年四月より幸運にも福岡大学第二内科に移る事が出来ました。福大ではアポリポタンB、アポリポタンC、アポリポタンEの異化に

関係する研究を行っており、昭和五十七年より、福大第二内科に復学しています。今後の抱負は脂質およびアポリポタンB、アポリポタンC、アポリポタンEの異常の臨床および研究を充実し、さらに生体の基礎である栄養全般について学びたいと考えています。研究面では二内科の伝統であるレベルの高い研究を目標にゆつくり、着実に努力するつもりです。趣味は特記すべき事なく、しいてあげるならば食べ歩き、旅行で研究する上で最適な環境と考えられますので、cleveland の経験を生かし、その仕事を今後更に発展させたいと思っております。最後に、趣味は山登りで、学生の頃ワグネル部に属し、北・南アルプスを中心に夏山登山に勢を出していましたが、留学中はロッキーマウンテンのドライブ旅行に終りました。できれば休日には近くの油山の散策を楽しみたいと思っております。



僕自身は三年間 Dr. Tarazi 及び Dr. Fouad の下で臨床研究に従事し、この研究室に最近導入された R と Echo の非観血的方法を用いて、降圧剤による高血圧性心肥大の改善、カプトリル（Captopril）による慢性心不全の長期治療、血液透析患者の血行動態及び自律神経機能異常を研究してまいりました。内科第二教室には循環器・高血圧・腎臓の各専門分野のスタッフがいっぱい、Dr. Tarazi の研究室以上に幅広く、Tara's の研究室以上に幅広く、循環系異常の疾患を多面的視点で研究する上で最適な環境と考えられますので、cleveland の経験を生かし、その仕事を今後更に発展させたいと思っております。最後に、趣味は山登りで、学生の頃ワグネル部に属し、北・南アルプスを中心に夏山登山に勢を出していましたが、留学中はロッキーマウンテンのドライブ旅行に終りました。できれば休日には近くの油山の散策を楽しみたいと思っております。

外科学第一講師

原田 達司



昭和二十一年四月十九日、広島県北部の三次市に生まれ、三才の時広島市に移り以後小学校より大学まで広島で育ちました。広島大学医学部を昭和四十六年に卒業

歯科口腔外科講師

山崎 裕



昭和二十一年四月十九日、広島県北部の三次市に生まれ、三才の時広島市に移り以後小学校より大学まで広島で育ちました。広島大学医学部を昭和四十六年に卒業

福岡大学医学会総会および例会

- 第五回総会
日時 昭和五十七年七月二十一日（水）午後一時半
場所 福岡大学医学部臨床大講堂
議事 一 報告事項
二 役員改選
三 五十六年度会計報告
ならびに五十七年度予算
その他
四 次回例会
日時 昭和五十七年七月二十一日（水）午後四時十五分
場所 福岡大学医学部臨床大講堂
講演 一 生化学第一助手 黒木政秀「正常成人便中のCEA関連抗原の精製とその性状解析」
司会 松岡雄治教授
二 心臓外科助手 宮脇 仁「低体温低流量体外循環の術後腎機能面よりの検討」
司会 浅尾 学教授
三 内科学第一助手 藤野正典「完全左房ブロック例の左心機能の心エコー法による評価」
司会 奥村 惇教授
- 福岡大学医学部が開設されてから、はやく十年を経過し、これから次の発展段階に入ることにあります。この発展は国際的な交流を通じての広い視野の上にならなければならない。福岡大学医学部が開設されてから、はやく十年を経過し、これから次の発展段階に入ることにあります。この発展は国際的な交流を通じての広い視野の上にならなければならない。福岡大学医学部が開設されてから、はやく十年を経過し、これから次の発展段階に入ることにあります。この発展は国際的な交流を通じての広い視野の上にならなければならない。

編集後記

福岡大学医学部が開設されてから、はやく十年を経過し、これから次の発展段階に入ることにあります。この発展は国際的な交流を通じての広い視野の上にならなければならない。福岡大学医学部が開設されてから、はやく十年を経過し、これから次の発展段階に入ることにあります。この発展は国際的な交流を通じての広い視野の上にならなければならない。